

「里のほほえみ」の

種子大豆生産者の皆さんへ

べと病・紫斑病の防除を徹底しましょう

アミスター20フロアブルは、
令和8年産は使用可

種子栽培においては、23年産から隔年使用として
おります。

べと病は病気に罹った茎葉などで伝染します。また、冷涼で雨が多いときに発生します。葉や子実
に発生が見られ、子実に発生すると被害粒（病害粒）となりますので丁寧な調製等で除去しましょう。

紫斑病は病気に罹った茎葉や種子で伝染します。種苗法の指定種苗の生産等に関する基準において
は、混入してはならないこととなっていることから、体系的な薬剤防除を徹底しましょう。

防除等のポイント

べと病防除（裏面の表1参照）

- 多発したほ場で連作はしない。
- 過繁茂で風通しが悪いと発病しやすいため、密植や早播きを避ける。
- 開花10日前～子実肥大期に薬剤防除する。
 - ・開花前に発生した場合は、茎葉によくかかるよう丁寧に薬液を散布する。
 - ・開花後の早い時期に農薬を散布する。
 - ・発生が拡大する場合は、開花40日後までに追加防除を行う。



べと病（左：葉、右：子実【出典：栃木県農業環境指導センター】）

紫斑病防除（裏面の表2参照）

- 多発したほ場では、秋耕を行い罹病した植物残渣を土中に埋める。
- 必ず種子消毒を行う。
- 開花後に必ず薬剤散布を行う。
- 薬剤の散布は最低2回実施する。その際、1回目と2回目は異なるグループ（RACコード）の薬剤を使用すること。
- 散布時期は開花15～35日後とし、1回目散布はこの期間の早い時期に行う。
- 収穫後乾燥せずに数日間放置すると、紫斑粒率が増加するので、収穫後は速やかに乾燥すること。



紫斑粒

品質向上対策及び品質目標

品質向上対策

- 播種適期は6月15日～7月5日。
- ブラソイラ等による心土破碎により排水対策を行う。
- ハスモンヨトウ、カメムシ類、マメシンクイガ等の病害虫に注意し適切に防除する。
- 収穫前に青立ち株や雑草を除去する。
- 着色粒や腐敗粒、黒斑粒は特に注意して選別すること。
- ちりめんしわ粒対策として緩効性窒素の基肥施肥または、開花期以降の窒素追肥による生育後半の栄養状態改善を図る。また、刈遅れや急激な乾燥は亀甲じわ増加に繋がるので、適期収穫、適切な乾燥作業に務める。
- しわ粒が多かったり、過乾燥の状態で選別するとはく皮粒が発生しやすいので注意する。

品質目標

調製篩い目	7.9mm
篩上の割合	98%
水分	13.0%

表1 **べと病防除に使用できる主な薬剤**（登録内容は令和8年4月20日現在）

農薬名 登録番号	希釈倍率	使用方法	使用時期 回数	成分	RACコード
ランマンフロアブル 20624	1,000～2,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 3回以内	シアゾファミド	F：21
アミスター20フロアブル 20574	2,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 2回以内	アゾキシストロビン	F：11
ベトファイター顆粒水和剤 22397	2,000～3,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 2回以内	シモキサニル	F：27
				ベンチアバリカルブイソ プロピル	F：40
フェスティバルC水和剤 19510	600倍	散布(100～300L/10a)	収穫7日前まで 3回以内	ジメトモルフ	F：40
				銅	F：M1
プロボース顆粒水和剤 21954	1,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫21日前まで 2回以内	ベンチアバリカルブイソ プロピル	F：40
				T P N	F：M5
リドミルゴールドMZ 22772	500倍	散布(100～300L/10a)	収穫45日前まで 3回以内	マンゼブ	F：M3
				メタラキシルM	F：4
撒粉ボルドー粉剤DL 18370		散布(4kg/10a)	—	塩基性硫酸銅	F：M1

表2 **紫斑病防除に使用できる主な薬剤**（登録内容は令和8年4月20日現在）

農薬登録番号	希釈倍率	使用方法	使用時期回数	成分	RACコード
(種子消毒に使用する薬剤)					
クルーザーMAXX 22917	乾燥種子1kg当り 原液8ml	塗沫処理	は種前 1回以内	チアメトキサム	I : 4 A
				フルジオキシニル	F : 1 2
				メタラキシルM	F : 4
ベンレートT水和剤20 20888	乾燥種子重量の 0.2～0.4%	種子粉衣	は種前 1回以内	チウラム	F : M 3
				ベノミル	F : 1
キヒゲンR-2フロアブル 20604	乾燥種子 1 kg当り 原液20ml	塗沫処理	は種前 1回以内	チウラム	F : M 3
ゲッター水和剤 17697/17698/23366	乾燥種子重量の 0.5%	種子粉衣	は種前 1回以内	ジエトフェンカルブ	F : 1 0
				チオファネートメチル	F : 1
(生育期に使用する薬剤)					
アミスター20フロアブル 20574	2,000 ～3,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫 7 日前まで 2 回以内	アゾキシストロビン	F : 1 1
	16 ～24倍	無人航空機散布 (0.8L/10a)			
ファンタジスタ顆粒水和剤 23102/23103	2,000 ～4,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫 7 日前まで 3 回以内	ピリベンカルブ	F : 1 1
サンリット水和剤 20980	1,000 ～2,000倍	散布(100～300L/10a)	収穫14日前まで 2 回以内	シメコナゾール	F : 3
Zボルドー 24041	500倍	散布(100～300L/10a)	—	銅	F : M 1

※アミスター20フロアブルは、耐性菌が発生しやすいので隔年使用(令和8年産は使用可)なお、同一年にファンタジスタ顆粒水和剤と併用しないこと。

※散布と無人航空機が併記された薬剤は両方に登録があるので、希釈倍率を確認して使用すること。

農薬は使用前に、ラベルをよく読み、使用方法・使用時期・使用回数等を確認し、正しく使用しましょう。

大豆子実の病害虫防除の徹底に努めましょう

※防除方法等は「栃木県農作物等病害虫雑草防除指針」及び「優良種子生産の手引き(大豆)」を参照ください。